



豪雨後の農作物の管理と対策について

8月5日の大雨により、畑地や河川敷で浸冠水が発生しています。農作物の被害を最小限にとどめるため以下を参考に管理の徹底をお願いします。

1 共通

- (1) 水路や河川等は引き続き増水や氾濫の危険があるので、降雨がおさまりに、水路等の減水を確認したら圃場や施設を調査し、速やかに対策を講じましょう。
- (2) 圃場に土砂等が流入した場合は、関係機関に連絡を行うとともに、流入した土砂等を適切な方法で速やかに除去しましょう。
- (3) 浸冠水した圃場で、停滞水が多い場合は、排水路の整備やポンプアップ等により早期に排水しましょう。
- (4) 停滞水がない圃場でも、集中した降雨により農作物が弱っている可能性がありますので、その後の生育経過をよく観察し、速やかに生育の回復を図る対策を行いましょう。

2 水稲

- (1) 浸冠水した圃場では、可能な限り速やかに排水し、特に冠水すると酸素不足となり、幼穂形成期以降では穂や枝梗の退化や枯死、奇形穎花の発生や出穂・開花が不揃いとなりやすく、登熟期では登熟不良や穂発芽が発生するので、少しでも葉先が出るように排水する。
- (2) 退水後はアワヨトウやウンカ類等の害虫の被害を受けやすくなり、出穂後は穂いもちが発生しやすいので、無人ヘリ等での防除を徹底する。
- (3) 濁水や土砂の流入がみられる場合は、埋没、茎葉の損傷、倒伏、籾の脱粒や損傷、株流出などの物理的な障害も起こる。流入した異物などはできるかぎり除去する。
- (4) 被害程度は、浸冠水時間、水温、水の清濁などに左右され、生育ステージでは穂孕期と出穂期の被害が大きい。

表1 水稲の生育ステージと冠水被害（減収率） ※農水省被害調査資料より抜粋

被害時期	滞水期間	1～2日		3～4日		7日以上	
	冠水状況	損傷状況	被害歩合(%)	損傷状況	被害歩合(%)	損傷状況	被害歩合(%)
穂孕期	濁水葉先露出	葉先黄変	20	出穂遅れ しいな増加	50	出穂遅れ 下葉変色や枯死	85～100
	濁水冠水	葉先黄変	70 半日で50	出穂遅れ しいな増加	80	ほとんどの幼穂枯死 枝梗ができていれば 1～2割収量得る	85～100
	清水葉先露出	葉先黄変	10	出穂遅れ しいな増加	30	出穂遅れ 下葉変色や枯死	65～100
	清水冠水	葉先黄変	25	出穂遅れ しいな増加	45	出穂遅れ 下葉変色や枯死	80～100
出穂期	濁水冠水	一穂重 やや減少	30	下葉黄化 枯死	80	下葉黄化 枯死	90～100
	清水冠水		15	下葉変色	25	下葉変色	50～70
成熟期	濁水冠水		5		20		30
	清水冠水		0		15		20

3 大豆

- (1) 浸水した圃場では、明渠の補修を行いながら可能な限り速やかに排水を図る。
- (2) 濁水や土砂の流入がみられる場合は、埋没、茎葉の損傷、倒伏、株流出などの物理的な障害も起こる。流入した異物などはできるかぎり除去する

4 そば

- (1) 浸灌水した圃場では、明渠の補修を行いながら可能な限り速やかに排水を図る。
- (2) 濁水や土砂の流入がみられる場合は、種子の埋没、流出、茎葉の損傷、倒伏、株流出などの物理的な障害も起こる。流入した異物などはできるかぎり除去する。
- (3) 8月15日頃を播種の晩限としているため、圃場の排水状況及び乾燥状態をみながら播き直しも検討する。（※そば種子に関してはJA資材店舗にお問い合わせください）

5 飼料作物

牧草について二番草が未収穫のまま浸水した場合は、排水後できるだけ早く刈り取り、反転乾燥し土砂を落とす。浸水草地は雑草が侵入しやすいため、刈り取り高さを10 cm以上とし、収穫後速やかに追肥して草勢の回復を図る。

病虫害防除時の薬剤選択にあたっては、農作物病虫害防除基準等を参考にするとともに**薬剤の使用回数(成分回数)及び収穫前使用日数(使用時期)**等使用基準には十分に注意する。また、同一薬剤の連用を避けるなど、耐性菌出現の防止に留意する。

作業の際は、安全に留意し、熱中症防止のため、こまめに休憩と水分補給を!